都道府県名	和歌山県

Ⅰ　学校の概要（平成１５年４月現在）

新宮市立丹鶴小学校									
学　年	１年	２年	３年	４年	５年	６年	特殊学級	計	教員数
学級数	１	１	１	１	１	１	０	６	１０
児童数	２３	２０	１４	２３	２１	２５	０	１２６	

Ⅱ　研究の概要

１．研究主題

確かな学力の定着を図るための研究　～算数科・国語科を通して～

２．研究内容と方法

（１）実施学年・教科

研究課題として
・指導方法や指導体制の工夫改善
・基礎基本の徹底方法
・児童の学力の評価を生かした指導の改善
という３点を設定し、
・全学年が研究授業（要請訪問）を実施することでの教師自身の授業力（技術）の向上を図る。
・有効と思われる指導形態としてのＴ・Ｔ指導や少人数制指導での支援方法の具体化を図る。
・基礎基本の徹底を図るための補充学習や教材プリントの開発、ドリルタイムの取組を進める。
・個に応じるための評価規準と支援方法の具体化を図る。
という４点を中心とした研究を進めることが、「確かな学力」の向上につながるのではないかと考えた。

特に、フロンティア事業推進の初年度となる今年度は、算数科研究授業を重視し、研究協議での視点を「授業展開や教具及び支援方法」及び「一人ひとりの児童について共通理解、授業における児童の達成度把握」に置いた。

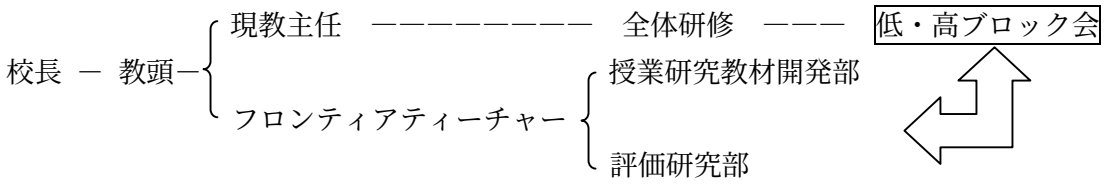
１年生　算数科（TT 形式による授業）「どんなけいさんになるのかな」　１２月１５日
２年生　算数科（TT 形式による授業）「長さをはかろう」　６月１８日
３年生　算数科（TT 形式による授業）「わり算をかんがえよう」　１１月１９日
４年生　算数科（TT 形式による授業）「三角形のなかまを調べよう」　９月１０日
５年生　算数科（TT 形式による授業）「面積の求め方を考えよう」　１１月１２日
６年生　算数科（TT 形式による授業）「比べ方を考えよう」　７月　２日

（２）年次ごとの計画

平成15年度	・研究授業（要請訪問） ・評価規準の作成 ・教材開発 ・同一研究校交流 ・先進校視察 ・公開授業及び中間報告会 ※研究授業の研究協議の視点　授業の展開や教具及び授業者の指導力向上に関する助言 児童について 本時の評価規準や手立て、児童の達成度のつかみ方 TT や少人数制の有効性（単元の特性による授業形態） ４月　学力向上の取組体制についての研究 ５月　新宮市立蓬莱小学校の授業研究「算数科」に参加 ６月　ドリルタイムのプリント開発についての研究 ７月　一学期の取組のまとめ ８月　評価規準と少人数制、二学期の取組についての研究 １１月　那智勝浦町立下里小学校の授業研究「算数科」に参加 １２月　本校の授業研究「算数科」に蓬莱小学校、下里小学校の先生の参加 学習発表会 １月　２学期の取組のまとめ、今後の取組についての研究 ２月　中間報告会・公開授業 ３月　今年度のまとめ

平成16年度	・指導方法や指導体制の工夫改善 課題選択学習を進める TT 授業や少人数授業のあり方 ・基礎基本の徹底方法 ドリルタイムと児童の主体的な学びを進める有効な学習カルテの活用 ・児童の学力の評価を生かした指導の改善 評価規準と支援方法の具体化 上記３点の研究課題に向けて、国語科・算数科の研究授業（要請訪問）、評価規準の作成、教材開発、同一研究校交流、先進校視察等により研究を進めつつ、フロンティアスクールとしての研究成果普及のためにもホームページにより、１５年度の取組、１６年度の研究の進展状況等を配信する。

（３）研究推進体制



授業研究教材開発部・・・授業形態・朝ドリルの取組
評価研究部　　・・・HP 情報発信・学力検査やアンケート・評価規準
低・高ブロック　　・・・指導案の検討、教具開発の協力

Ⅲ　平成１５年度の研究の成果及び今後の課題

１．研究の成果

・指導方法や指導体制の工夫改善

（一斉 TT 指導）

算数科について全学年が TT による一斉 TT 授業（T1 が全体指導を行い、T2 が全体指導の補助や個別指導に当たる）を中心に実践してきたが、このことは「個の多様性」への対応という学習目標に向けての児童一人ひとりの理解度や意欲等の違いへの手立てという点において一定の効果をあげたといえる。

特に、低学年では一人ひとりの発達課題を理解してよりきめの細かい指導を、高学年でも大きくなった個人差や学習力の格差にできる限り柔軟に対応してきている。

（等質少人数指導）

４年生・５年生の実践により、本校のような２０名前後の学級集団を二分する１０名程度の学習小集団では、指導者の目が行き届き、「誰が、どこで、どう誤まり、どうつまずいているのか」についても丁寧にみることができ、個に応じた適切な指導や支援を施せること、また消極的な児童の意見発表がみられるなどの効果が認められた。

・基礎基本の徹底方法

個に応じた指導方法の改善（一斉 TT 授業、等質少人数指導）によることに併せ、学習カルテの活用、朝ドリルタイムの取組を進めるための教材プリント開発などで、技能習熟や主体的な学習意識を持たせる取組を進めた。

あまり有効に活用されたとはいえないが、計算力や漢字力の補充学習のためにパソコンを活用しての漢字・計算ソフトの利用環境を整備した。

・児童の学力の評価を生かした指導の改善

各授業での各児童の達成度評価に併せて、朝ドリルタイムの成績データ、教科単元のテスト成績データ、県学力診断テスト、CRT テスト（国語・算数）の成績データ等を総合する。

２．今後の課題

・指導方法や指導体制の工夫改善

（一斉 TT 指導）

高ブロックでは各学年の算数科への TT 配当時間数を週当たり平均３時間と設定したため、重点教材等への柔軟性な対応にやや欠けた面が否めなかった。この点からは、年間指導計画作成にあたって、カリキュラム、時間割編成時に打ち合わせの時間確保をも含めての検討を要する。また少人数授業の取組との関連からも、一斉 TT 授業だけでなく、課題選択学習を進める TT 授業のあり方を研究する必要も感じられ、それにともなう T1 と T2 の多角的で多面的な支援のあり方や、また評価に際しての役割等についての研究も進める。

（少人数指導）

今年度の４年・５年の取組に見られた成果は、学習到達度の下位レベル児童を対象とした「つまずき解消を目指す少人数学習」、特に道具を使用する技能習熟場面での有効性を認めるということに過ぎず、また等質集団であっても集団間の学習進度に多少の差が生じるなど、後の全体指導（一斉 TT）での手立ても要している。

こうした点からも、少人数授業の効果的な「教科、単元、学習課題」について、学習効果のあがる集団の人数、複数の指導者間の打ち合わせ、TT 授業との関連等、今後の研究課題が残り、且つ習熟度別少人数指導を視野に入れて研究を進める。

・基礎基本の徹底方法個に応じた教材の開発

（朝ドリルの教材プリント）

技能訓練による漢字力や四則計算力の定着を図るための取組として、一学期より各担任が学級の児童に応じた自作プリントや百マス計算表を作成し活用してきたが、二学期よりは来年度に引き継ぐことを考慮し、小学校６年間に習熟すべき内容を系列化、ステップ化したプリント集（フォーラム A 式）を全学年に導入した。

今後は、学級の児童の実態に即した担任自作のプリントとの有効な併用について検討を加えていく。

（個人カルテ）

３年・４年・５年において、学級の実態に応じた学習カルテを活用したが、児童の主体的な学習を促し、また評価にフィードバックするためにも、より有効なカルテのあり方についての研究を進める。

（パソコン活用　使用ソフト　学研デジタルドリル１年生～６年生）

計算力や漢字力の補充学習のために、パソコン２２台（パソコン室）を活用しての漢字・計算ソフトの利用できる環境を整備したが、パソコン数の台数不足により、十分に活用されなかったことも否めない。この点では、現状の台数を有効に活用する方法を検討していく。

・児童の学力の評価を生かした指導の改善

各授業の評価規準と支援の具体化を進める。

・国語科を通した取組

朝ドリルタイム（漢字・読書・音読・読み聞かせ等）の実施、及び二学期の学習発表会を表現力・発表力をつける場面との位置付けから、それに向けた取組がなされた。今後は、各領域や単元に応じた具体的な指導方法についての研究を進める。

Ⅳ　学力等把握のための学校としての取組

授業における評価規準の達成度
朝ドリルタイムのデータ
教科単元テストのデータ
県学力診断テスト
CRT テスト（国語・算数）の分析
生活実態アンケート
学校評価アンケート

Ⅴ　フロンティアスクールとしての研究成果の普及

・周辺協力校との授業研究会への相互参加
　５月　新宮市立蓬莱小学校の授業研究「算数科」に参加
　１１月　那智勝浦町立下里小学校の授業研究「算数科」に参加
　１２月　本校の授業研究「算数科」に蓬莱小学校、下里小学校の先生の参加
　　学習発表会
　２月　中間報告会
・ホームページでの配信内容と掲載計画の決定

◇　次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】　☑１５年度からの新規校　□１４年度からの継続校

【学校規模】　☑６学級以下　□７～１２学級
□１３～１８学級　□１９～２４学級

【指導体制】　□少人数指導　☑T.T による指導
□一部教科担任制　□その他

【研究教科】　☑国語　□社会　☑算数　□理科
□生活　□音楽　□図画工作　□家庭
□体育　□その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】　☑有　□無